

50

P 午後

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 27 年 3 月 1 日 14 時 20 分 ~ 17 時 00 分)

## 注意事項(一般受験者)

1. 試験問題の数は100問で解答時間は正味2時間40分である。
  2. 解答方法は次のとおりである。
- (1) 各問題には1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。

(例1) 101 破傷風菌の純粋培養に成功したのは誰か。

1. 北里柴三郎
2. 志賀潔
3. 杉田玄白
4. 野口英世
5. 前野良沢

(例2) 102 解体新書を完成させたのは誰か。2つ選べ。

1. 北里柴三郎
2. 志賀潔
3. 杉田玄白
4. 野口英世
5. 前野良沢

(例1)の正解は「1」であるから答案用紙の①をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④	⑤
			↓		
101	●	②	③	④	⑤

答案用紙②の場合、

101		101
①		●
②		②
③	→	③
④		④
⑤		⑤

(例2)の正解は「3」と「5」であるから答案用紙の③と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	①	②	③	④	⑤
			↓		
102	①	②	●	④	●

答案用紙②の場合、

102		102
①		①
②		②
③	→	●
④		④
⑤		●

- (2) ア. (例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。
- イ. (例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

## 注意事項(弱視者)

1. 試験問題の数は 100 問で解答時間は正味 2 時間 40 分である。
  2. 解答方法は次のとおりである。
- (1) 各問題には 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した  
 選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

<p>(例 1) 101 破傷風菌の純粋培養に          成功したのは誰か。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北里柴三郎</li> <li>2. 志賀潔</li> <li>3. 杉田玄白</li> <li>4. 野口英世</li> <li>5. 前野良沢</li> </ol>	<p>(例 2) 102 解体新書を完成させた          のは誰か。2 つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北里柴三郎</li> <li>2. 志賀潔</li> <li>3. 杉田玄白</li> <li>4. 野口英世</li> <li>5. 前野良沢</li> </ol>
--	--

(例 1) の正解は「1」であるから答案用紙の

	問題 番号	答		問題 番号	答	
	101		の「答」の欄に	101	1	と記入すればよい。

(例 2) の正解は「3」と「5」であるから答案用紙の

	問題 番号	答		問題 番号	答	
	102		の「答」の欄に	102	3 5	と記入すればよい。

答えの数字は、はっきりと記入すること。不明瞭なものは解答したことになるので注意すること。

- (2) ア. (例 1) の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。  
 イ. (例 2) の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。
- (3) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

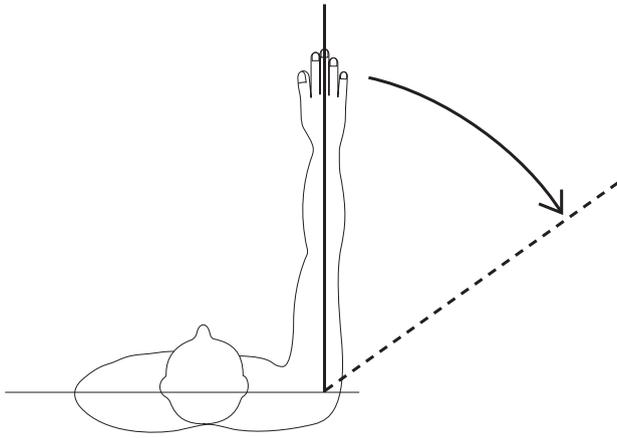
◎ 指示があるまで開かないこと。



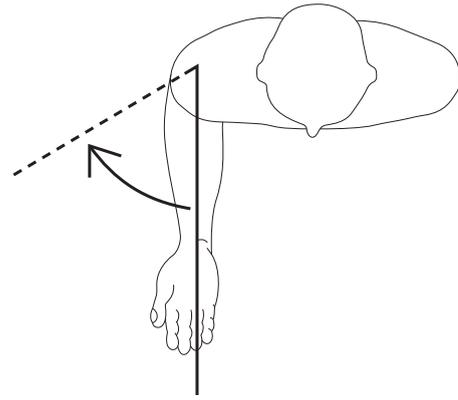




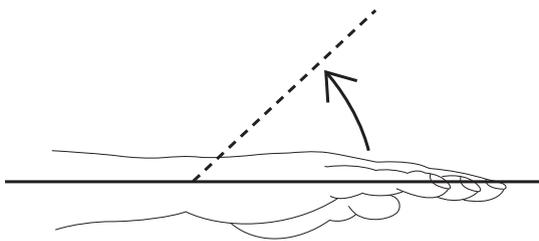
1 関節可動域測定法(日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会基準による)で正しいのはどれか。2つ選べ。



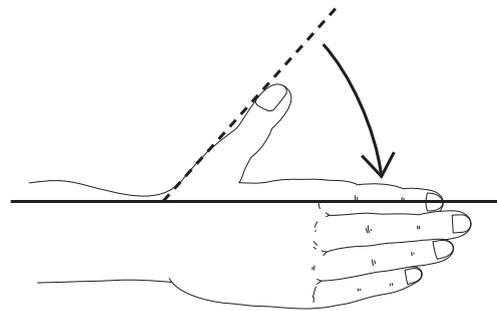
1. 肩水平伸展



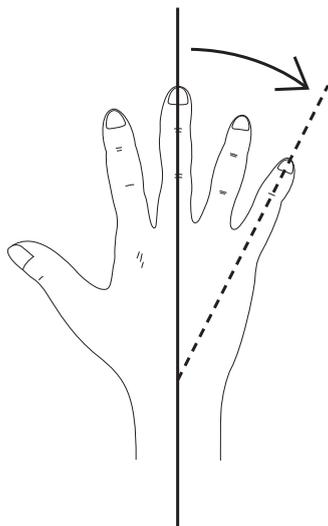
2. 肩外旋



3. 手伸展



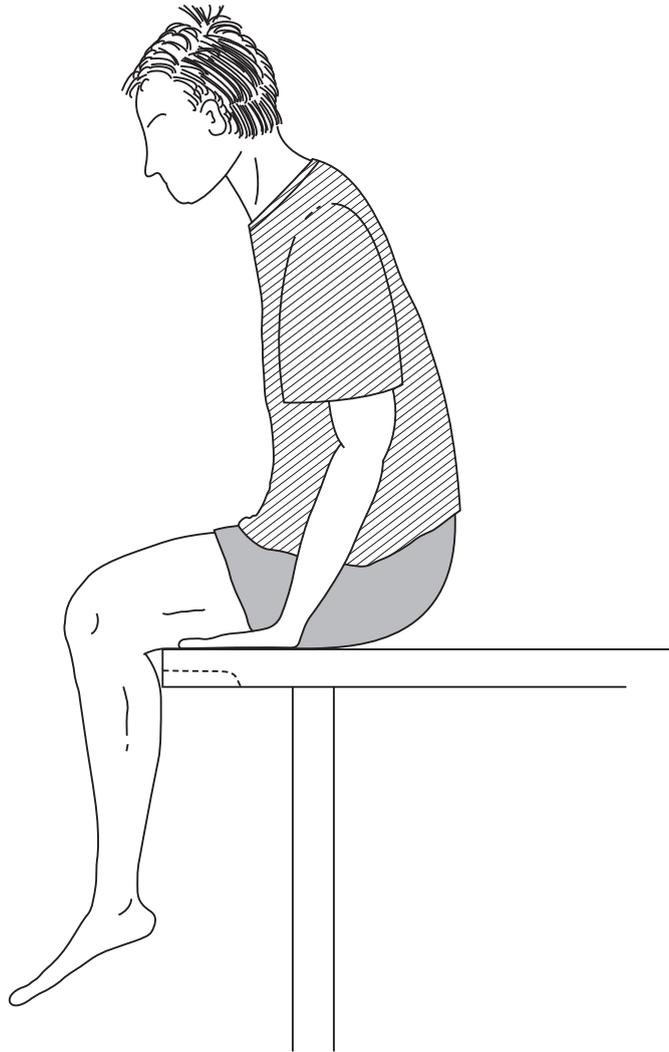
4. 母指尺側内転



5. 小指外転

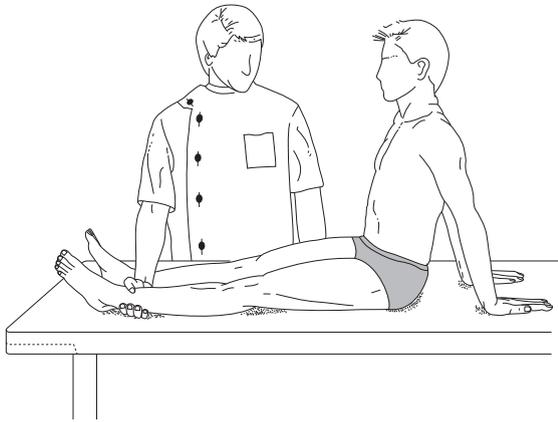
—— 基本軸  
 - - - - 移動軸

- 2 Daniels らの徒手筋力テストにおける開始肢位を図に示す。  
段階3の検査の対象として適切でないのはどれか。

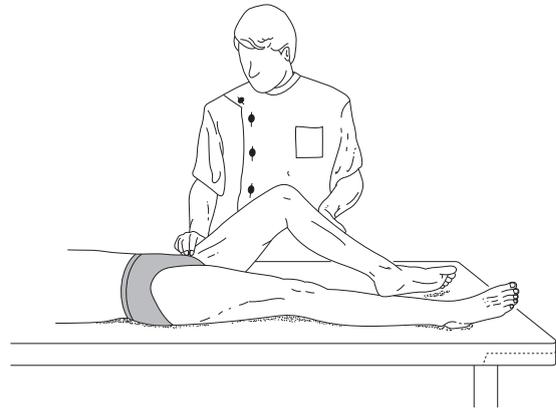


1. 腸腰筋
2. 縫工筋
3. 前脛骨筋
4. 大腿四頭筋
5. 股関節内旋筋群

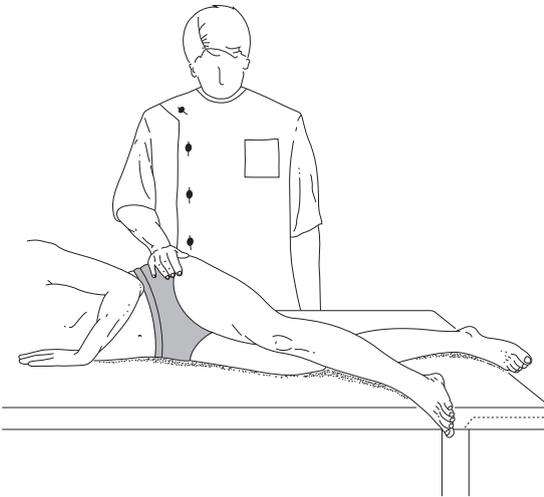
3 Daniels らの徒手筋力テストで、段階 2 の測定肢位で正しいのはどれか。2 つ選べ。



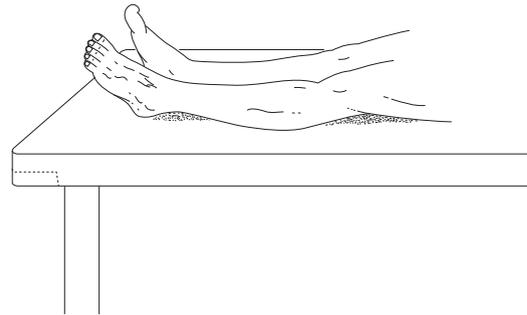
1. 小殿筋



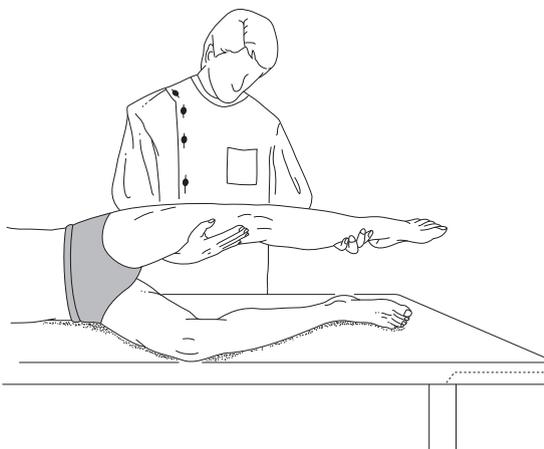
2. 縫工筋



3. 腸腰筋



4. 後脛骨筋



5. ハムストリングス

4 Daniels らの徒手筋力テストの結果を表に示す。

考えられる疾患はどれか。

	右	左
眼輪筋	F	F
口角挙筋	F	NF
口輪筋	F	NF
前頭筋	F	F
鼻筋	F	NF

1. 被殻出血
2. Bell 麻痺
3. 重症筋無力症
4. Ramsay Hunt 症候群
5. 筋強直性ジストロフィー

5 55歳の男性。突然のめまいを自覚し、歩行困難を呈したため搬送された。頭部MRIのT1強調像(別冊 No. 1)を別に示す。

みられる所見はどれか。

1. JCSⅢ-100
2. 左顔面の痛覚低下
3. 左上肢の小脳失調
4. 右上肢の運動麻痺
5. 左下肢の深部感覚低下

別冊 No. 1
-------------

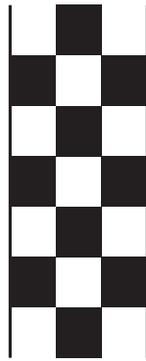
6 87歳の女性。脳卒中による重度の右片麻痺。回復期リハビリテーション病棟に入院中。座位での基本動作は自立。認知機能は保たれている。短下肢装具と4点杖で5mまでは自力での歩行が可能。介助があればT字杖で20m程度の歩行は可能。ここ2か月は状態に大きな変化はみられない。最近、介護老人保健施設への退院が決まった。

退院後の生活上の移動手段で実用的なのはどれか。

1. T字杖を使用した介助歩行
2. 4点杖を使用した自力歩行
3. 4点杖を使用した介助歩行
4. 手すりを利用した自力歩行
5. 車椅子

7 50歳の男性。Parkinson病。発症後5年を経過し、すくみ足が出現してきている。  
自宅で転倒が頻回に生じている。

転倒予防として自宅の廊下に模様を入れる際に効果的な図柄はどれか。



1



2



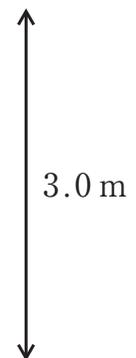
3



4



5



8 25歳の男性。Guillain-Barré症候群。発症後3日で運動麻痺は進行しており、呼吸筋麻痺のため人工呼吸器管理中である。

理学療法で適切でないのはどれか。

1. 体位変換
2. 筋力増強運動
3. 胸郭ストレッチ
4. 関節可動域運動
5. 30°程度のリクライニング位

9 65歳の男性。4歳時に急性灰白髄炎に罹患し右下肢麻痺となった。歩行時には右膝を右手で押さえながら歩いていた。55歳ころから腰痛を自覚するようになり、最近歩行時の疲労が増し下肢の冷感が強くなってきたため受診した。身長160cm、体重75kg(30歳時と比較して20kg増加)。筋力はMMTで、右大腿四頭筋と右前脛骨筋は段階1である。ポリオ後症候群と診断され、理学療法を行うことになった。

理学療法として適切なのはどれか。

1. 自転車エルゴメーターによる有酸素運動
2. 右下肢装具を装着しての歩行練習
3. 右大腿四頭筋の筋力増強運動
4. 四つ這いでの移動練習
5. 車椅子による移動

10 26歳の男性。仕事中の事故によって頸髄損傷を生じた。S4、5領域の運動機能と感覚機能とは完全に喪失していた。徒手筋力テストの結果を表に示す。

到達可能と予測される動作はどれか。

横隔膜	5
短橈側手根伸筋	2
深指屈筋	0
上腕二頭筋	4
上腕三頭筋	2
小指外転筋	0

1. 更衣
2. 自己導尿
3. プッシュアップ動作
4. 自助具を用いた食事動作
5. ベッドから車椅子への移乗動作

11 75歳の女性。交通事故により受傷。救急搬送時のエックス線写真(別冊 No.2)を別に示す。

遠位骨片を短縮転位させる主な筋はどれか。

1. 中殿筋
2. 小殿筋
3. 腸腰筋
4. 上双子筋
5. 大腿直筋

別 冊

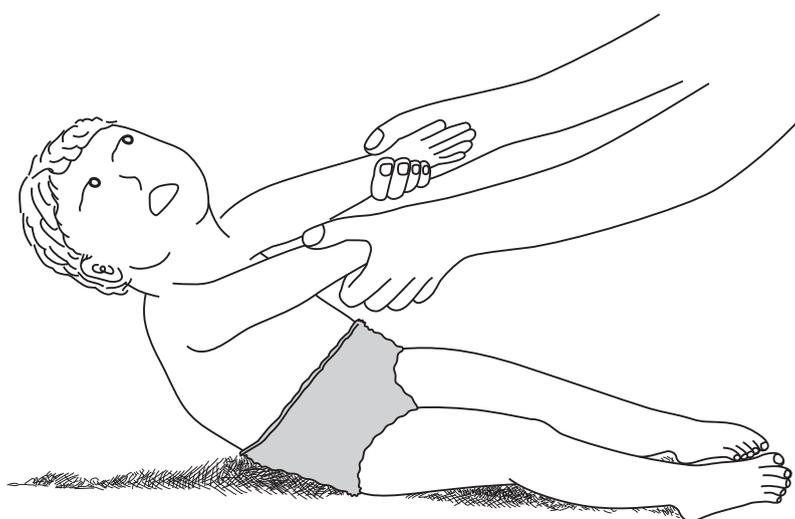
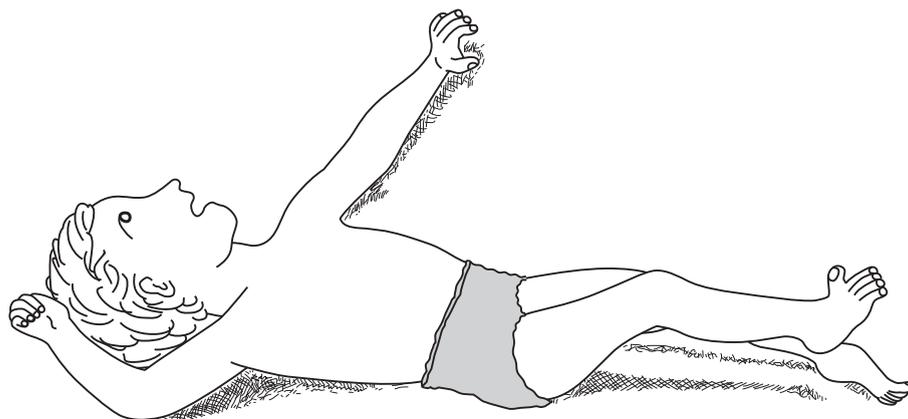
No. 2

12 50歳の女性。アキレス腱断裂に対する縫合術後4週目において、軟部組織の伸張性増大の目的で行う超音波療法の実施内容で適切でないのはどれか。

1. 時間照射率：10～20 %
2. 強度：1.5 W/cm<sup>2</sup>
3. 治療面積：有効照射面積の2倍以内
4. 移動速度：1 cm/秒(ビーム不均等率5以下)
5. 治療時間：3～5分

13 5歳の男児。脳性麻痺で痙直型四肢麻痺である。粗大運動機能は側臥位までの寝返りが可能。背臥位と背臥位から引き起こしたときの状態を図に示す。

臨床症状として可能性が低いのはどれか。



1. 足クローヌス陽性
2. 下肢の伸筋共同運動
3. 緊張性迷路反射の残存
4. パラシュート反応陽性
5. 股関節外転の可動域制限

14 70歳の男性。身長180 cm、体重90 kg。脳梗塞のため麻痺肢に内反尖足がみられる。10 mであれば独歩可能であるが、軽度の分回し歩行となる。意識してゆっくりと歩けば分回しを軽減することは可能であるが、遊脚相の股関節屈曲は増加し立脚中期に膝過伸展がみられる。2動作前型で屋外歩行の自立を目標に理学療法を進めている。

この患者に適切なのはどれか。

1. 装具は不要
2. 軟性足装具
3. プラスチック短下肢装具(ショートタイプ、継手なし)
4. プラスチック短下肢装具(つま先までの標準型、継手なし)
5. 金属支柱付短下肢装具

15 肢誘導における心電図(別冊 No. 3)を別に示す。

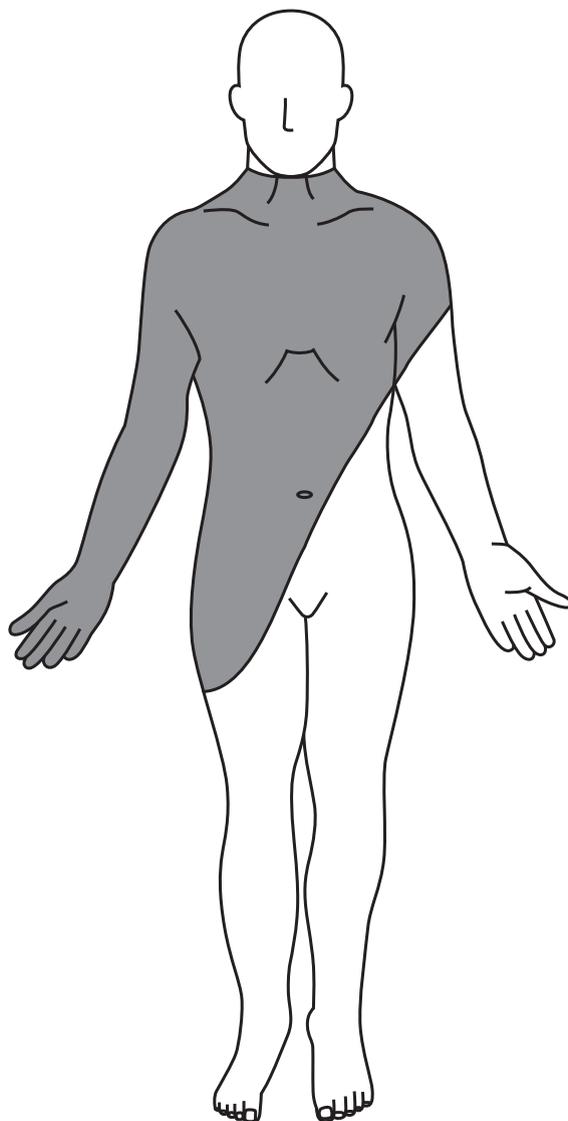
正しいのはどれか。

1. 心房細動
2. 心房粗動
3. II度房室ブロック
4. 心室期外収縮
5. 心室頻拍

別 冊

No. 3

- 16 44歳の患者。Ⅱ度の熱傷がある部位を図に示す。  
受傷後3日目に保持すべき肢位で正しいのはどれか。



1. 頸部中間位
2. 肩関節外転位
3. 右前腕回内位
4. 体幹軽度屈曲位
5. 股関節軽度屈曲位

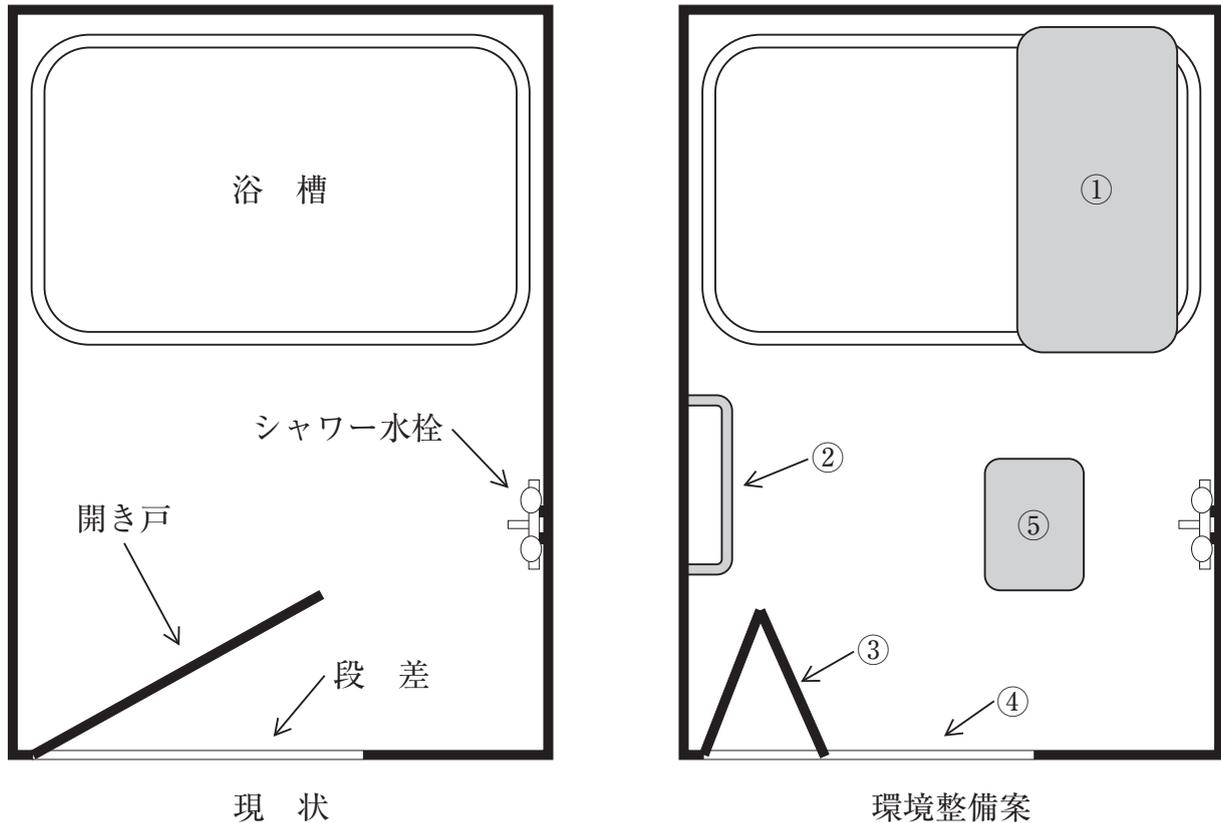
17 65歳の男性。右片麻痺。病棟では、ベッドから車椅子への移乗は介助者に腰を軽く引き上げてもらい、車椅子からベッドへの移乗は介助者に腰を持ち上げて回してもらおう。

移乗動作の FIM の点数はどれか。

1. 5点
2. 4点
3. 3点
4. 2点
5. 1点

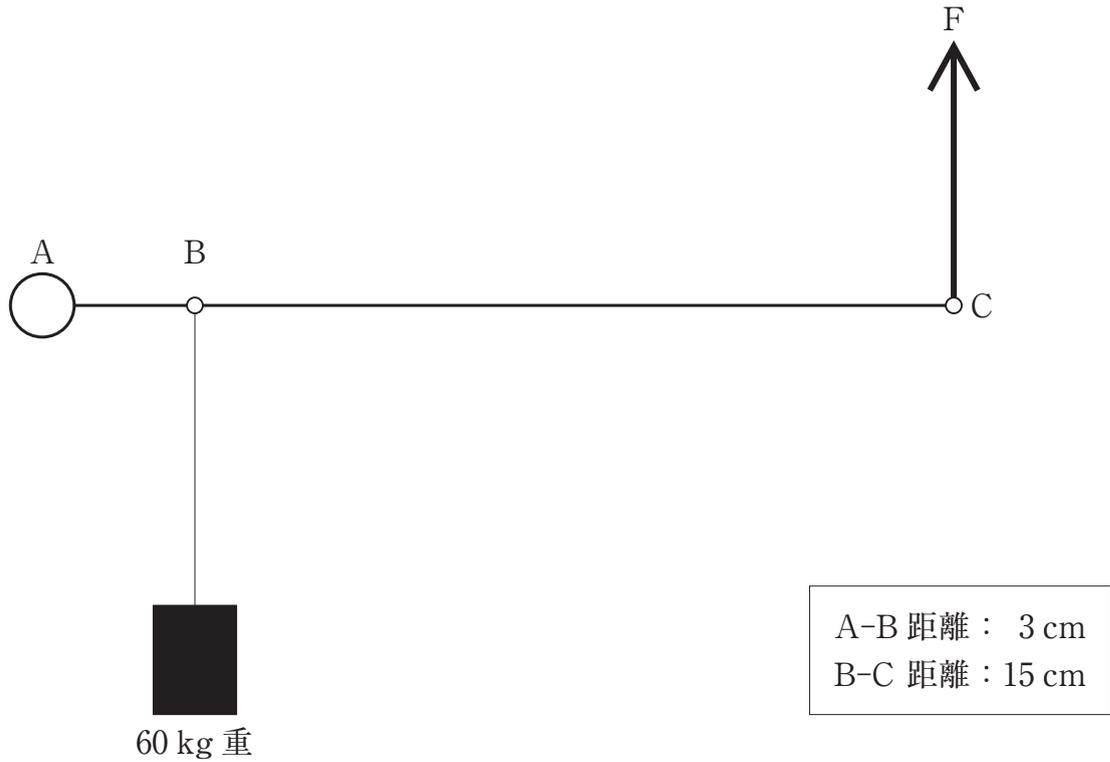
18 75歳の男性。脳卒中による左片麻痺。発症後6か月経過。Brunnstrom法ステージは上肢、下肢ともにⅢ。AFOとT字杖で屋内歩行は自立している。自宅浴室の現状の見取り図と環境整備案とを図に示す。

環境整備案のうち最も必要性が低いのはどれか。



1. ①バスボードの利用
2. ②手すりの設置
3. ③折り戸への変更
4. ④段差の解消
5. ⑤シャワーチェアの利用

- 19 てこを図に示す。A を支点とした棒の B 点から 60 kg 重の錘を糸で垂らした。棒を水平に支えるために C 点にかかる力 F(N) はどれか。ただし、1 N を 100 g 重とし、棒と糸の質量は無視できるものとする。



1. 60 N
2. 80 N
3. 90 N
4. 100 N
5. 120 N

20 75歳の女性。左変形性膝関節症。翌日に左側の人工関節置換術を施行予定のため、術前の理学療法評価を実施した。術前評価を終了した際に患者は「明日の手術が心配です」と訴えた。

理学療法士の対応として適切なのはどれか。

1. 「手術をやめたいということですか」
2. 「つらいのは1週間くらいなので、大丈夫ですよ」
3. 「手術を頑張れば、膝関節の伸びがよくなりますよ」
4. 「手術をすれば、今より楽に歩けるようになりますよ」
5. 「手術を明日に控えて、いろいろと心配になりますよね」

21 関節可動域測定法(日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会基準による)の運動方向と基本軸の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 肩甲帯挙上 ————— 肩峰と胸骨上縁を結ぶ線
2. 肩外転 ————— 両側の肩峰を結んだ線への垂直線
3. 前腕回内 ————— 橈 骨
4. 膝屈曲 ————— 大腿骨
5. 足部内がえし ————— 下腿軸への垂直線

22 Daniels らの徒手筋力テストにおける頸部屈曲の測定で正しいのはどれか。2つ  
選べ。

1. 上位頸椎の運動を測定する。
2. 広頸筋による代償を抑制する。
3. 背臥位で両腕を胸の前で組ませて行う。
4. 段階2は下顎を頸部に引き付ける運動で判断する。
5. 段階5は2本の指で加えた中等度の抵抗で判断する。

23 Daniels らの徒手筋力テストで段階2における筋と測定肢位の組合せで正しいのは  
どれか。2つ選べ。

1. 棘上筋 ————— 腹臥位
2. 大菱形筋 ————— 側臥位
3. 肩甲下筋 ————— 腹臥位
4. 小円筋 ————— 背臥位
5. 前鋸筋 ————— 座位

24 脳卒中患者の状態を症状なしから死亡までに分類できるのはどれか。

1. Fugl-Meyer assessment
2. GCS(Glasgow coma scale)
3. Modified Ashworth scale
4. Modified Rankin scale
5. SIAS

25 右延髄背外側部の脳梗塞による障害で認められるのはどれか。

1. 左内反足
2. 右下垂足
3. 右の痛覚脱失
4. 左の深部感覚障害
5. 右下肢の運動失調

26 前大脳動脈閉塞で最も生じやすい症状はどれか。

1. 観念運動失行
2. 強制把握現象
3. 地誌的失見当
4. 着衣失行
5. 物体失認

27 Duchenne 型筋ジストロフィーのステージ 6 (厚生省筋萎縮症研究班の機能障害度分類による)に対する理学療法として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 四つ這い移動練習
2. 脊柱の可動域運動
3. 電動車椅子操作の練習
4. 短下肢装具装着での立位バランス練習
5. 台やテーブルを利用した立ち上がり練習

28 アテトーゼ型脳性麻痺について誤っているのはどれか。

1. 痙直型より少ない。
2. 原始反射が残存しやすい。
3. 不随意運動を主症状とする。
4. 上肢より下肢の障害が重度であることが多い。
5. 成人以降の二次障害として頸椎症性脊髄症がある。

29 PEDI(pediatric evaluation of disability inventory)で正しいのはどれか。

1. 機能的スキルを測定する。
2. 脳性麻痺は対象にならない。
3. 出生直後から使用可能である。
4. 社会的機能は評価項目に含まれない。
5. 評価に要する時間は WeeFIM より短い。

30 ASIA 機能障害尺度で L4 の key muscle はどれか。

1. 腸腰筋
2. 腓腹筋
3. 前脛骨筋
4. 大腿四頭筋
5. 長母指伸筋

31 脊髄完全損傷者の機能残存レベルと日常生活動作の到達レベルの組合せで正しいのはどれか。

1. 第4頸髄節 ———— 手動での車椅子操作
2. 第5頸髄節 ———— 更衣動作の自立
3. 第6頸髄節 ———— 寝返りの自立
4. 第7頸髄節 ———— 介助によるトイレへの移乗
5. 第8頸髄節 ———— 介助による起き上がり

32 膝前十字靭帯断裂の評価で適切な検査法はどれか。2つ選べ。

1. 前方引き出しテスト
2. Barlow テスト
3. N-テスト
4. Ortolani テスト
5. Patrick テスト

33 アキレス腱周囲炎について正しいのはどれか。

1. 10～20代に多い。
2. 踵補高の足底板を用いる。
3. Thompson テスト陽性である。
4. 疼痛は下腿の近位に発生することが多い。
5. 過労性骨膜炎が原因となっていることが多い。

34 肘部管症候群を疑う所見はどれか。2つ選べ。

1. 小指のしびれ
2. Froment 徴候
3. Tear drop 徴候
4. 母指球筋の萎縮
5. 正中神経伝導速度の低下

35 寒冷療法の作用で正しいのはどれか。

1. 痛覚閾値の低下
2. 血液粘稠度の低下
3. 毛細血管透過性の亢進
4. 組織の酸素需要量の減少
5.  $\alpha$  運動ニューロンの活動抑制

36 超音波療法について正しいのはどれか。

1. 周波数は深達度に影響しない。
2. 成長期の小児の骨端線への照射は避ける。
3. 水中の照射では温熱効果は期待できない。
4. 機械的刺激で細胞の膜透過性が抑制される。
5. 空気中の照射では皮膚とプローブを約 10 cm 離す。

37 カナダ式股義足で誤っているのはどれか。

1. ソケットの固定を両側腸骨稜の上部と坐骨の3点で行う。
2. 股継手と膝継手を通る線が踵の25～40 mm 後方を通る。
3. 股継手を正常股関節軸より45° 前上方につける。
4. ソケットの懸垂を切断対側の腸骨稜で行う。
5. 股屈曲制限バンドをつける。

38 PTB 式免荷装具について正しいのはどれか。

1. 歩行あぶみ(パッテン底)は舟状骨の真下に置く。
2. ハムストリングスを圧迫するように装着する。
3. 脛骨高原骨折で適応となる。
4. 膝蓋骨は荷重部位である。
5. 膝関節は固定される。

39 口すぼめ呼吸で正しいのはどれか。

1. 気道の虚脱を抑える。
2. 全肺気量を増加させる。
3. 吸気時間を延長させる。
4. 呼吸仕事量を増加させる。
5. 機能的残気量を増加させる。

40 2型糖尿病患者に対する教育入院後1か月の効果を示すのに適切なのはどれか。

1. CRP
2. 尿糖
3. HbA1c
4. 空腹時血糖
5. 血中アルブミン

41 がん患者の緩和ケア病棟におけるリハビリテーションで正しいのはどれか。

1. 病名告知を前提として理学療法を行う。
2. 肺癌の患者では呼吸介助は禁忌となる。
3. 疼痛に対して温熱療法を行うことはない。
4. リンパ浮腫に対して理学療法は行わない。
5. 患者の意思に合わせて理学療法の内容を変更する。

42 全身持久力トレーニングの長期効果について誤っているのはどれか。

1. 血圧の低下
2. 心拍出量の増加
3. 最大酸素摂取量の増加
4. 骨格筋毛細血管密度の減少
5. 動静脈酸素含有量較差の増加

43 正常歩行について正しいのはどれか。

1. 股関節は1歩行周期に伸展と屈曲とが2回生じる。
2. 膝関節は1歩行周期に伸展と屈曲とが1回生じる。
3. 足関節は1歩行周期に背屈と底屈とが2回生じる。
4. 一側下肢の立脚相と遊脚相の割合は7：3である。
5. 高齢者では歩行比が大きくなる。

44 歩行率で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 歩行比ともいう。
2. 身長で補正する。
3. 幼児では高齢者より大きい。
4. 単位時間当たりの歩数を意味する。
5. 加齢による変化は歩幅より大きい。

45 深部腱反射と反射中枢の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 下顎反射 ————— C1～4
2. 上腕二頭筋反射 ———— C7、8
3. 回内筋反射 ————— C6～T1
4. 下肢内転筋反射 ———— T12、L1
5. アキレス腱反射 ———— L5～S2

46 運動負荷量を段階的に増加させる評価法はどれか。

1. Bruce 法
2. 踏み台昇降テスト
3. 12 分間歩行テスト
4. ハンドグリップテスト
5. マスターシングルテスト

47 FIM のトイレ動作で評価される項目はどれか。2 つ選べ。

1. トイレに近づく。
2. 便器に移乗する。
3. 服を下げる。
4. 拭く。
5. トイレのドアを閉める。

48 国際生活機能分類(ICF)において、活動・参加の第一評価点で示されるのはどれか。

1. 促進因子
2. 実行状況
3. 阻害因子
4. 支援なしの能力
5. 支援ありの能力

49 3群に分けたグループ間で平均値に差があるかを統計学的に検定する手法で正しいのはどれか。

1. t 検定
2. 相関分析
3. 分散分析
4. 重回帰分析
5. Welch 検定

50 理学療法士及び作業療法士法で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 理学療法士の診療報酬を規定している。
2. 理学療法士の理学療法業務独占を規定している。
3. 理学療法士名簿への登録者に理学療法士免許が与えられる。
4. 理学療法士免許証を紛失した場合は都道府県知事から再交付される。
5. 理学療法士名簿の登録事項に変更が生じた場合は30日以内に訂正を申請する。

51 骨について正しいのはどれか。

1. 皮質骨は骨梁から形成される。
2. 皮質骨はコラーゲンを含まない。
3. 海綿骨にはハバース管が存在する。
4. 海綿骨の表面は骨膜で覆われている。
5. 骨端と骨幹端の間に成長軟骨板がある。

52 月状骨と関節を構成しないのはどれか。

1. 橈骨
2. 三角骨
3. 有鉤骨
4. 有頭骨
5. 小菱形骨

53 肋骨に付着する筋はどれか。

1. 広背筋
2. 僧帽筋
3. 小円筋
4. 大菱形筋
5. 肩甲下筋

54 筋と支配神経の組合せで正しいのはどれか。

1. 小円筋 ————— 腋窩神経
2. 棘上筋 ————— 肩甲下神経
3. 三角筋 ————— 肩甲上神経
4. 大円筋 ————— 肩甲上神経
5. 肩甲下筋 ————— 腋窩神経

55 筋と付着部の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 恥骨筋 ————— 大腿骨頸部
2. 縫工筋 ————— 下前腸骨棘
3. 短内転筋 ————— 恥骨上枝
4. 長内転筋 ————— 恥骨結節
5. 大腿二頭筋 ————— 腓骨頭

56 大脳の領野と部位の組合せで正しいのはどれか。

1. 一次運動野 ————— 側頭葉
2. 一次嗅皮質 ————— 後頭葉
3. 一次視覚野 ————— 前頭葉
4. 一次聴覚野 ————— 辺縁葉
5. 一次体性感覚野 ————— 頭頂葉

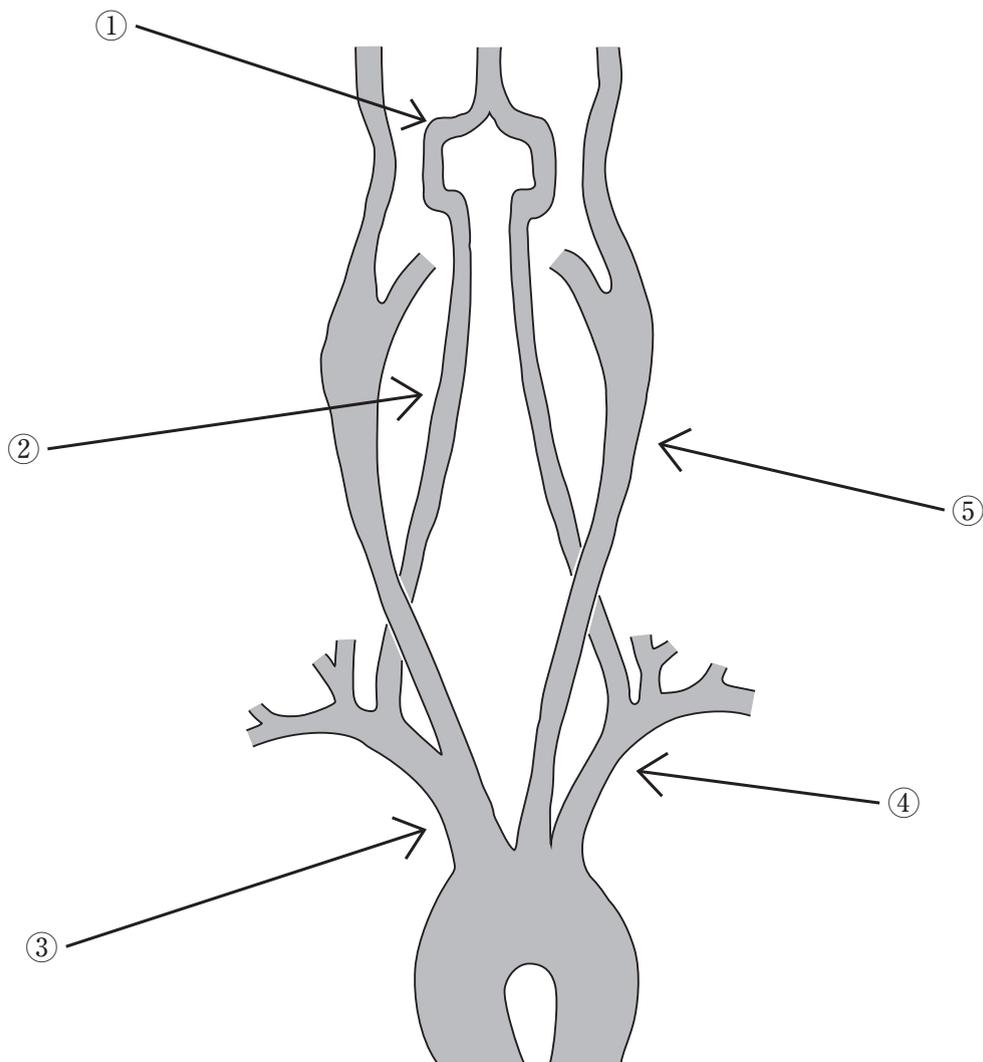
57 深腓骨神経が支配する筋はどれか。2つ選べ。

1. 長指伸筋
2. 後脛骨筋
3. 短腓骨筋
4. 第三腓骨筋
5. 腓腹筋

58 上咽頭後壁の触覚をつかさどる神経はどれか。

1. 舌咽神経
2. 顔面神経
3. 迷走神経
4. 三叉神経
5. 第2頸神経

59 大動脈から頭頸部に至る動脈の模式図を示す。  
 動脈の位置と名称の組合せで正しいのはどれか。



1. ① ———— 後下小脳動脈
2. ② ———— 椎骨動脈
3. ③ ———— 総頸動脈
4. ④ ———— 腕頭動脈
5. ⑤ ———— 鎖骨下動脈

60 染色体と細胞分裂について正しいのはどれか。

1. 常染色体は 46 個ある。
2. Y 染色体は X 染色体より大きい。
3. 減数分裂は生殖細胞にみられる。
4. 細胞分裂は小胞体の移動から始まる。
5. トリソミーとは性染色体が 3 個ある状態である。

61 運動単位について正しいのはどれか。

1. 運動神経終末には髄鞘がある。
2. 運動終板は筋線維の深部に存在する。
3. 運動神経活動電位の発生によって筋弛緩が生じる。
4. 運動神経終末のシナプス間隙にドパミンが放出される。
5. 正常では 1 つの筋線維につき 1 個の神経筋接合部が存在する。

62 静止している人が、動いている乗り物を注視する際にみられる生理的な眼球運動に含まれるのはどれか。

1. 固視微動
2. 注視眼振
3. 頭位眼振
4. 回転後眼振
5. 視運動性眼振

63 副交感神経の作用はどれか。

1. 気管支の収縮
2. 心拍数の増加
3. 涙液の分泌抑制
4. 膝液の分泌抑制
5. 内肛門括約筋の収縮

64 レム睡眠について正しいのはどれか。

1. 筋緊張が亢進する。
2. 脳波は高振幅である。
3. 入眠直後に多く出現する。
4. 急速眼球運動がみられる。
5. 一晩に 20 回程度みられる。

65 酸塩基平衡で正しいのはどれか。

1. 正常の血液 pH は 7.0 である。
2. 嘔吐では代謝性アルカローシスになる。
3. 過換気では呼吸性アシドーシスになる。
4. 呼吸性アルカローシスでは尿は酸性になる。
5. 代謝性アルカローシスでは Kussmaul 呼吸がみられる。

66 腎臓の尿細管で再吸収されるのはどれか。

1. アミノ酸
2. イヌリン
3. アンモニア
4. クレアチニン
5. ミオグロビン

67 排便機構で正しいのはどれか。

1. 排便中枢は第 10～12 胸髄に存在する。
2. 排便反射では外肛門括約筋が収縮する。
3. 下行結腸に便が貯留すると便意を生じる。
4. 胃結腸反射により結腸の蠕動運動が亢進する。
5. 副交感神経系は消化管運動に抑制的に作用する。

68 基礎代謝について誤っているのはどれか。

1. 安静臥床で計測する。
2. 体温の上昇によって増加する。
3. 同性、同年齢ならば体表面積に比例する。
4. 代謝当量(METs)は、作業時代謝量 ÷ 基礎代謝量で表す。
5. 食後の消費エネルギー増加は、脂質摂取に比べ蛋白質摂取で大きい。

69 筋と呼吸運動の組合せで正しいのはどれか。

1. 横隔膜 ————— 吸 気
2. 腹直筋 ————— 吸 気
3. 大胸筋 ————— 呼 気
4. 内肋間筋 ————— 吸 気
5. 胸鎖乳突筋 ————— 呼 気

70 嫌氣的代謝の過程で生成される物質はどれか。

1. クエン酸
2. コハク酸
3. リンゴ酸
4. ピルビン酸
5. イソクエン酸

71 肩甲骨の上方回旋に働く筋はどれか。

1. 前鋸筋
2. 小胸筋
3. 広背筋
4. 大菱形筋
5. 肩甲挙筋

72 基本肢位からの股関節の運動について正しいのはどれか。

1. 屈曲時に腸脛靭帯は緊張する。
2. 伸展時に坐骨大腿靭帯は緊張する。
3. 外転時に大腿骨頭靭帯は緊張する。
4. 内旋時に恥骨大腿靭帯は緊張する。
5. 屈曲時に腸骨大腿靭帯は緊張する。

73 疾患または症候と異常歩行の組合せで誤っているのはどれか。

1. 運動失調 ————— 酩酊歩行
2. Parkinson 病 ————— すくみ足歩行
3. 脳卒中片麻痺 ————— 尖足歩行
4. 総腓骨神経麻痺 ————— 分回し歩行
5. 両下肢痙性麻痺 ————— はさみ脚歩行

74 成人の静止立位で正しいのはどれか。

1. 重心線は足関節軸の前方を通る。
2. 重心線は膝関節軸の後方を通る。
3. 重心線は環椎後頭関節の後方を通る。
4. 重心位置は第2腰椎のやや前方にある。
5. 小児より身長に対する重心位置が高い。

75 扁平上皮癌の特徴はどれか。

1. 粘液を産生する。
2. 神経組織に由来する。
3. 複数の胚葉成分を含む。
4. 細胞は相互に結合している。
5. 細胞間に間質成分がみられる。

76 心拍出量が最も小さいのはどれか。

1. 背臥位
2. 腹臥位
3. 右側臥位
4. 左側臥位
5. リクライニング位

77 頭部 CT(別冊 No. 4)を別に示す。

出血部位はどれか。

1. 頭頂葉皮質下
2. 放線冠
3. 被 殻
4. 視 床
5. 橋

別 冊

No. 4

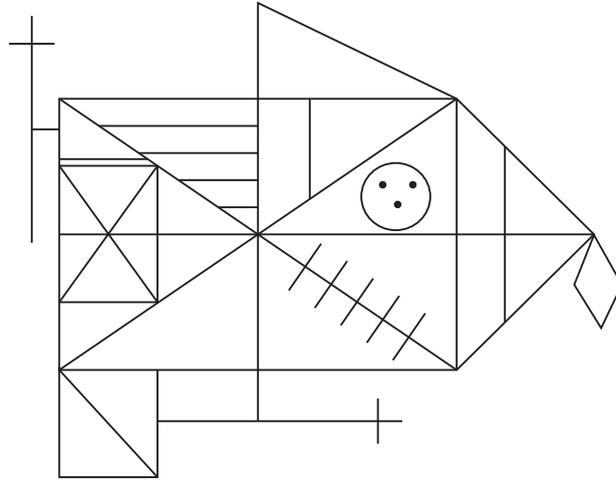
78 個人的な無意識とは別に「神話や伝承などに人類共通の普遍的無意識がある」と言ったのはどれか。

1. Adler
2. Jaspers
3. Jung
4. Kraepelin
5. Schneider

79 憧れの人々の口調や身振りをまねる心理はどれか。

1. 昇華
2. 退行
3. 同一化
4. 反動形成
5. 置き換え

80 図に示す課題を用いるのはどれか。



1. Bender gestalt test
2. Raven's colored progressive matrices
3. Rey auditory verbal learning test
4. Rey-Osterrieth complex figure test
5. Stroop test

81 訓練療法はどれか。

1. 催眠療法
2. 絵画療法
3. 森田療法
4. 精神分析療法
5. 来談者中心療法

82 院内感染対策として適切でないのはどれか。

1. 二次感染の防止
2. 感染経路の把握
3. ガウンテクニック
4. 抗菌薬の予防的投与
5. 院内ガイドラインの作成

83 介護保険法の特定疾病に含まれるのはどれか。

1. 筋ジストロフィー
2. 多発性硬化症
3. 多発性筋炎
4. ポリオ後症候群
5. Parkinson 病

84 出血部位と出現しやすい症候の組合せで正しいのはどれか。

1. 被 殻 ————— 作 話
2. 皮質下 ————— 複 視
3. 視 床 ————— 注意障害
4. 小 脳 ————— 反響言語
5. 橋 ————— 半側空間無視

85 結核について正しいのはどれか。

1. 病変は肺に局限する。
2. 菌は胃酸の中では死滅する。
3. 初期から閉塞性換気障害を呈する。
4. 我が国では新規発症は年間 100 例未満である。
5. 診断した医師は保健所に届け出なければならない。

86 HIV(ヒト免疫不全ウイルス)について誤っているのはどれか。

1. HIV 感染によりニューモシスチス・カリニ肺炎の発症率が上昇する。
2. AIDS(後天性免疫不全症候群)は HIV 感染によって生じる。
3. AIDS 発症の抑制に有効な治療薬がある。
4. HIV は喀痰から感染する危険が高い。
5. HIV は T リンパ球を死滅させる。

87 原始反射とその説明の組合せで正しいのはどれか。

1. Moro 反射 ————— 両上肢の挙上
2. 緊張性迷路反射 ————— 腹臥位での四肢の伸展
3. 非対称性緊張性迷路反射 ————— 顔を向けた側の上下肢屈曲
4. Galant 反射 ————— 刺激側が凸になる体幹の側屈
5. 台のせ反応 ————— 刺激側足関節の底屈

88 小児の正常発達で最も早く可能になるのはどれか。

1. 手掌握り
2. 高這い移動
3. 1人で座る
4. つかまり立ち
5. バイバイをする

89 加齢に伴い増加するのはどれか。

1. 速筋線維
2. ビタミン D
3. 成長ホルモン
4.  $\alpha$  運動神経細胞
5. 炎症性サイトカイン

90 骨折の名称と部位の組合せで正しいのはどれか。

1. Monteggia 骨折 ———— 上腕骨
2. Cotton 骨折 ———— 橈 骨
3. Malgaigne 骨折 ———— 骨 盤
4. Jefferson 骨折 ———— 大腿骨
5. Bennett 骨折 ———— 脛 骨

91 頸椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。

1. 女性に多く発症する。
2. 60～70 代に好発する。
3. 下肢症状より上肢症状で始まることが多い。
4. C6、7 間の外側型ヘルニアでは腕橈骨筋反射が亢進する。
5. 座位で両肩関節を過外転すると橈骨動脈の拍動が減弱する。

92 Duchenne 型筋ジストロフィーの特徴で正しいのはどれか。

1. 下肢筋力が上肢筋力より早く低下する。
2. 出生時から筋緊張低下がみられる。
3. 15～20 歳で歩行不能となる。
4. 常染色体劣性遺伝である。
5. ミオトニア現象を認める。

93 筋萎縮性側索硬化症にみられるのはどれか。

1. 筋固縮
2. 痛覚脱失
3. 測定異常
4. 線維束攣縮
5. 筋の仮性肥大

94 急性膵炎について正しいのはどれか。

1. 膵石がみられる。
2. 60歳以上の女性に多い。
3. アルコール性が最も多い。
4. 初期から糖尿病を合併する。
5. 重症での死亡率は1%未満である。

95 右心不全の直接的原因として正しいのはどれか。

1. 高血圧
2. 肥大型心筋症
3. 僧帽弁閉鎖不全症
4. 原発性肺高血圧症
5. 大動脈弁閉鎖不全症

96 アルコール依存症に関連が少ないのはどれか。

1. ペラグラ脳症
2. Cotard 症候群
3. Wernicke 脳症
4. Liepmann 現象
5. Korsakoff 症候群

97 自我の障害はどれか。

1. アンヘドニア
2. 観念奔逸
3. 妄想気分
4. 離人症
5. 連合弛緩

98 家族がすぐにでも病気になるのではないか、という心配を繰り返し訴えるのはどれか。

1. 解離性障害
2. 強迫性障害
3. 社交(社会)不安障害
4. 全般性不安障害
5. 広場恐怖

99 パーソナリティ障害と特徴の組合せで正しいのはどれか。

1. 依存性パーソナリティ障害 ————— 嗜 癖
2. 演技性パーソナリティ障害 ————— 被暗示性
3. 回避性パーソナリティ障害 ————— 冷 淡
4. 統合失調質パーソナリティ障害 ————— 攻撃性
5. 非社会性パーソナリティ障害 ————— 几帳面

100 小児の精神障害で正しいのはどれか。

1. 吃音は女児に多い。
2. 分離不安障害は学童期に多い。
3. 反応性愛着障害は過度に警戒的である。
4. 反抗挑戦性障害の症状は家庭内に限局する。
5. 注意欠陥/多動性障害では成長につれて多動よりも不注意が軽快しやすい。









